

# 身体×ことば

「総合知を超えていくために」

大阪公立大学は「総合知」を重視した教育を展開しており、文理の垣根を越えた学びを推進し、持続可能な社会の実現に向けて、多様な知識を融合し、新たな価値を創造することを目指しています。

これまでの新型コロナウイルス感染症により、その流行の期間では、様々な行動制限を受け、親しい人たちなどと直接会う機会を奪われることとなりました。

その反面、直接会うことをしなくてもコミュニケーションを取る新たな技術や方法は、確実に広がりました。多様な知識を融合するためには、コミュニケーションは重要な役割を果たします。

コロナ前では、多くの場合、直接会って話すことで他者と理解し合ってきましたが、コロナ禍を経て得た知見を活かすためにも、改めてコミュニケーションをどうとるべきかが問われています。

今回の公開講座では、コミュニケーションにおいて重要な要素である「身体×ことば」に焦点をあて、それぞれの専門分野における身体とことばの役割を講師に語っていただくとともに「総合知」の土台ともいえる表現のあり方について考える機会をしたいと思います。

能「隅田川」上演

能における

「身体×ことば」

2025  
11.12(水)  
15:00-17:00

友枝 雄人

喜多流能楽師

1967年東京都生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業。故友枝喜久夫の孫。伯父友枝昭世の養子となる。故喜多実、友枝 昭世に師事。能楽協会会員。重要無形文化財総合認定。3歳で初舞台「鞍馬天狗花見」。10歳で初シテ「経改」。1994年「狸々乱」、2002年「道成寺」、2005年「石橋」、2010年「翁」を披く。2021年「石橋一人獅子」を披く。「五蘊会」主宰。「観ノ会」参加。2009年小学館白洲賞受賞。

武道における

「身体×ことば」

2025  
11.5(水)  
14:00-15:30

内田 樹

思想家、フランス文学者

1950年東京都生まれ。神戸女学院大学名誉教授、神戸市で武道と哲学研究のための学塾凱風館を主宰、合気道凱風館師範。東京大学文学部仏文科卒、東京都立大学人文科学研究科博士課程中退。専門は20世紀フランス文学・哲学、武道論、教育論。主著に『ためらいの倫理学』、『レヴィナスと愛の現象学』、『寝ながら学べる構造主義』、『先生はえらい』、『武道的思考』など。第六回小林秀雄賞（私家版・ユダヤ文化論）、2010年度新書大賞（『日本辺境論』）、第三回伊丹十三賞を受賞。近著に『沈む祖国を救うには』、『日本型コミュニズムの擁護と顕彰—権藤成卿の人と思想』、『知性について』など。

演劇における

「身体×ことば」

2025  
11.28(金)  
14:00-15:30

福島 祥行

大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授  
同大学 文学研究科 教授

専門は、相互行為論、学習—教育論、社会的レジリエンス創発、フランス語圏学。すべては相互行為により生ずるという立場から、言語、コミュニケーション、学び、協働などを研究している。また、40年以上にわたり演劇の現場に関わり、役者、舞台美術、戯曲なども担当してきた。

環境における

「身体×ことば」

2025  
11.19(水)  
14:00-15:30

花村 周寛

大阪公立大学  
現代システム科学研究科 准教授

ランドスケープデザインをもとにした「トランスケープ論」を専門とする。主著『まなざしのデザイン』（2017年、NTT出版、日本造園学会賞）、『まなざしの革命』（2022年、河出書房新社）。共著に宗教学者鎌田東二氏との『ヒューマンスケールを超えてわたし・聖地・地球』（2020年、ふねうま舎）、スリランカのテラワーム仏教のAスマナサーラ長老との『慈しみ主義』（2025年、河出書房新社）などがある。

コーディネーター

西田 正宏

大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授

専門は、古典とされるもの（古今和歌集や伊勢物語など）が、それぞれの時代にどのように享受されてきたのかを研究。一方で、「地域文化学」など多くの公開講座のコーディネーターにも携わってきた。直近では公開講座「『伊勢物語』の「文字」をよむ「ところ」をよむ」と題して高校生に「くずし字」の読み方を伝え、伊勢物語の世界を紹介する。

※感染症の流行や自然災害等の影響により、日程・開催方法・講座内容等が変更となる場合があります。

詳細は裏面を  
ご覧ください▶



# 講義スケジュール

<p><b>第1回</b> 11月5日(水) 14:00-15:30</p>	<p><b>武道における「身体×ことば」 講師：内田 樹</b> 武道修行の目的は『我執を去り自在を得る』ことにある。我執の最たるものは自己の身体を対象化し、これを操作しようとする観智的・中枢的な身体観である。逆説的なのは、この執着を解除するための指示が言語で行われるということである。『身体を脳から解放せよ』という指示が脳に向けて発されるのである。この背理を生きたところに武道の妙諦は存する。</p>
<p><b>第2回</b> 11月12日(水) 15:00-17:00 ※開催時間に ご注意ください</p>	<p><b>能における「身体×ことば」 講師：友枝 雄人</b> 能はことば(謡・詞章)と身体(舞・型)、音曲の総合によって成立する古典劇である。「総合知」などと今さららしくいうまでもなく、室町時代より600年間変わることなく、「総合知」的なものが継承されてきたのである。本講座では、喜多流能楽師・友枝雄人師による、《隅田川》をコーディネーターの西田正宏の解説にて鑑賞していただく。《隅田川》は、世阿弥の子の元雅の作で、『伊勢物語』第九段をモチーフにしながら、内容は『伊勢物語』とは異なり、ひとり子を人買に連れ去られた母親が物狂いとなって、京から東へと尋ねていく話である。</p>
<p><b>第3回</b> 11月19日(水) 14:00-15:30</p>	<p><b>環境における「身体×ことば」 講師：花村 周寛</b> 環境とは既にそこにあるものだけではなく、私たちの身体や頭の中の意味によって見いだされるものである。身体の状態や頭の中で想像する意味や価値が変われば、環境の中で見いだされるものも変わってくる。こうした私たち主体と環境との関係がそれぞれの世界を生み出しているが、それを風景とデザインという観点から考えてみたい。</p>
<p><b>第4回</b> 11月28日(金) 14:00-15:30 ※開催日に ご注意ください</p>	<p><b>演劇における「身体×ことば」——維新派の舞台分析から——</b> <b>講師：福島 祥行</b> かつて大阪を中心に公演していた維新派(1970-2017年)という劇団は、率いていた松本雄吉(1946-2016年)により「チャンチャン☆オペラ」と名づけられた独特のステージパフォーマンスを繰り広げてきた。公式サイトで「喋らない台詞、歌わない音楽、踊らない踊り」と掲げられているこの独特なパフォーマンスを相互行為論の立場から分析し、その身体とことばのありようについて「すれちがい」というキーワードで読み解く。</p>

- 会場：大阪公立大学中百舌鳥キャンパス Uホール白鷺
- 定員：500名(申込者多数の場合は抽選) ■ 対象者：どなたでも
- 受講料：4,000円(全4回分) ※ただし、学生(本学以外の学生を含む)は無料
- 申込方法：下の(1)(2)いずれかの方法でお申し込みください。

## 申込フォーム



- お一人様につき、一回のお申し込みが必要です。
- (1) **申込フォーム**：本学Webサイトまたは左記二次元コード「申込フォーム」からお申し込みください。
- (2) **往復はがき**：往信用はがきに①氏名(フリガナ)、②年齢、③郵便番号・住所、④電話番号、⑤このチラシの入手先をご記入の上、下記宛先へお送りください。
- ※返信用はがきは両面とも白紙でお送りください。
- (宛先) 〒556-0012 大阪市浪速区敷津東2-1-41 南海なんば第1ビル  
大阪公立大学 産学官民共創推進室「身体×ことば」係
- ※受講の可否は **10/24(金)**までに通知します。届かない場合は必ずお問い合わせください。

■ 問合せ先：大阪公立大学 産学官民共創推進室 社会連携担当 Tel 06-7656-5112 Fax 06-7656-5203

## 中百舌鳥キャンパス

堺市中区学園町1番1号

南海高野線「白鷺駅」下車、南西へ約500m

■ 南海高野線・泉北線「中百舌鳥駅」下車、南東へ約1000m

■ Osaka Metro御堂筋線「なかもず駅(5号出口)」から南東へ約1,000m

■ 南海高野線・泉北線「中百舌鳥駅」・Osaka Metro御堂筋線「なかもず駅」から南海バス(北野田駅前行)、「府立大学前」下車

■ 南海本線「堺駅」から南海バス(北野田駅前行)、「府立大学前」下車

■ JR阪和線・南海高野線「三国ヶ丘駅」から南海バス(北野田駅前行)、「府立大学前」下車

**申込締切**  
**10/13(月)必着**



中百舌鳥キャンパス  
アクセスマップ



大阪公立大学  
Osaka Metropolitan University

大阪公立大学  
生涯学習・公開講座Webサイト ▶

大阪公立大学 公開講座

🔍 検索

※お申し込みの際の個人情報、申込後の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。